

# 山形県連小会報

## 特集号

発行日 平成27年 8月28日  
 発行者 山形県連合小学校長会  
 高木 祐治  
 山形市木の実町12-37  
 県教育会館(大手門バルズ)

## 第69回 山形県連合小学校長会研究協議会開催される



### 大会日程

(6月12日(金) 山形市 国際交流プラザ)

9:30 ◇受付  
 10:00 ◇全体会  
 ○役員紹介  
 1 開会のあいさつ  
     菊地 宏哉 実行委員長  
 2 国歌・県民歌斉唱  
 3 会長あいさつ  
     高木 祐治 会長  
 4 来賓あいさつ  
     山形県教育委員会教育長  
     菅野 滋 様  
 5 来賓紹介  
     田中 利幸 幹事長  
 6 大会宣言  
     齋藤 昭憲 研修委員長  
 7 閉会のあいさつ  
     鈴木 雄次 次期実行委員長

○諸連絡  
 10:40 (休 息)  
 10:55 ◇研修Ⅰ  
     講演『人間性豊かな社会を築く  
     オペラ的な生き方』  
     講師 熊谷 眞一 氏 (大江町出身)  
 12:15 ◇昼食・休憩  
 13:20 ◇研修Ⅱ  
     分科会協議  
 16:00 ◇閉 会





## 会長あいさつ

山形県連合小学校長会

会長 高木 祐 治

おはようございます。本日、第69回山形県連合小学校長会研究協議会が県教育委員会教育次長 中井義時様、並びに市町村教育委員会協議会会長 金村勲様、そして歴代の県連小会長様方はじめ多くのご来賓の皆様方のご臨席をいただき、ここ山形国際交流プラザビッグウイングにおいて開催できますことを会員の皆様と共に喜び合いたいと思います。

今年度より、県連小研究協議会は「夢と希望をもち 共に未来を拓く いのち輝く子どもを育てる学校経営」という新しい副主題のもと、実施することとなりました。一昨年前、今研究協議会の主幹地区であります西村山地区校長会を中心に新しい副主題について検討をしていただきました。現在の社会状況と未来を生きる子ども達に期待される力、学校教育の中で子ども達に育むべき力について話し合い、全連小主題を受け、5教振から「いのち輝く」を受け継ぎ、6教振の「未来を拓く」を受け、検討をして参りました。こうしたことが本大会の趣旨文に見事に記して頂いたと思います。

この新しい副主題は平成29年度に開催されます第57回東北連合小学校長会研究協議会山形大会の副主題になる予定であります。この大会に向けて既に昨年の4月に準備委員会、10月に山形地区、上山地区、東村山地区を主幹地区として、実行委員会が設立され、今年1月には事務局会が開催され、今年度に入り各専門部の準備が具体的に始まっております。今後は、運営面での準備を進めるとともに、各地区担当の研究発表の準備も始まっていくかと思っております。今年度の研究協議会で発表される研究内容が未来に來年度に引き継がれ、そして平成29年度に結集されるものと思っております。

また、平成30年度からの県連小研究協議会の在り方、特に分科会構成について検討することが今年度の課題の一つであります。その理由と致しましては、ここ数年来の児童数の減少に伴い学校統廃合が続いており、昨年度は6校が減少し、今年度の県内の小学校の数は260校となりました。今後も続いていく

傾向にあります。これからの県連小研究協議会の充実を目指して、各地区校長会のご意見を頂きながら運営の在り方等について検討して参りたいと思いません。

このような状況の中で、将来を見据えて今年度より県連小の組織改革を行いました。その中の一つ、小学校教育の喫緊の課題に対して現状の把握とその解決に向けて調査・研究を行うこととしました。昨年度の理事会で検討し、今年度は新しく設立された生徒指導委員会に調査・研究を依頼したところがあります。既に校長先生方にはアンケートの依頼が届いていることと思っております。お忙しいところですが、ご協力の程をよろしくお願いを致します。

さまざまな検討事項を含んでおりますが、今研究協議会は私たち校長の経営力を高める最大の研修機会です。私たち校長は学校が置かれている状況を的確に判断し、変えていくべき事と守っていくべき事を見極めながら社会の変化に対応した学校経営に努めることが重要であると言われる。次々と提示される教育改革への対応は、子どもに反映されてこそ意義のある取り組みであると言えます。子どもも教師も意欲的に取り組む教育活動の実現を目指し、積極的な提言と情報交換を通して学校経営の方策を得ていただきたいと思っております。

また、それぞれの地域に根ざした創意と協働による活力ある教育活動の実践をもちより、参加会員相互の学校経営に触れるこの機会を大切にしながら、継続した研究の成果やそこから生まれた新たな課題について提案をしていただき、実りある研究協議会になることを願っております。最後になりますが、本研究協議会を開催するにあたり、日頃から温かいご指導とご支援を賜っております山形県教育委員会、並びに市町村教育委員会、関係団体、そして本大会の成功に向け熱意あふれる周到な準備をしていただきました西村山地区校長会の皆様に対して心から感謝を申し上げ、挨拶といたします。

本日一日どうぞよろしくお願いを申し上げます。



## 来賓あいさつ

山形県教育委員会

教育長 菅野 滋

(代読 山形県教育委員会教育次長 中井 義時)

皆さんおはようございます。教育次長の中井でございます。菅野教育長、所用につき代わって祝辞を述べさせていただきますと思います。

第69回山形県連合小学校長会研究協議会の開催にあたり一言お祝い申し上げます。

校長先生方におかれましては、日頃から本県小学校教育の充実・発展のためにご尽力いただいておりますことにまずもって深く感謝申し上げます。ありがとうございます。

また、この度ご勇退なされました校長先生方の功績に対しましても心より敬意と感謝を申し上げたいと思います。

さて、5月18日の山形県総合教育会議及び定例教育委員会におきまして、山形県教育等の振興に対する大綱及び第6次山形県教育振興計画が策定されました。大綱は本県の教育・学術及び文化の振興に関する施策の基本的な方針を定めるものであり、郷土愛や命の教育の継承など7つの柱による施策の展開の方向を示したものです。

第6次山形県教育振興計画は、今年度平成27年度を初年度とし「人間力に満ちあふれ、山形の未来をひらく人づくり」を基本目標に10の基本方針と20の主要施策の体系化を図りながら、相互的、計画的に施策を展開していくこととしております。

「つなぐ」をテーマに「いのち、学び、地域」の教育を充実することを掲げて、広い視野と高い志を持って「いのち」をつなぐ人、学び続ける人、地域とつながる人の育成を目指します。是非各学校に置かれましても6教振の方針を踏まえながら、これまでの各学校の教育の成果と課題を活かしつつ、工夫した教育の展開をしていただきますようお願い申し上げます。

さて、今年度は直面しているさまざまな課題解決に向けてこれまで以上に学校、家庭、地域の連携を意識して取り組みを進めていきますが、とりわけ学校教育におきましては小学校、中学校、高等学校が連携して一層結びつきの強い教育をしていきたいと考えております。特に山形の未来をひらく教育の推進事業として、小・中・高等学校を通した学力向上対策の一つとして、探求型学習に取り組むことや、グローバル化に対応した外国語教育の推進を図っております。

探求型学習については、推進協力をいただいている18校の他にも各小中学校で積極的に取り組みを始めているということをお聞きしております。また、外国語教育については、「世界にはばたけ出羽さんさんプロジェクト」を立ち上げまして、鶴岡二中と

その学区の4つの小学校、加えて鶴岡南高等学校、中央高等学校、小・中・高連携した取り組みを今始めております。特に郷土の自慢を英語で発信できるようなコミュニケーション能力を育てることを一つの特色としたカリキュラムや指導方法、指導体制の工夫をお願いしているところです。

なお、教職員の不祥事の防止については、今年度に入って各学校の日頃の取り組みの成果が上がっているところではございますが、残念ながら先月の末、県内の中学校において授業中に誤ってわいせつな画像を流すという事案が発生いたしました。申し上げるまでもなく、県民全体の奉仕者たるべき教育公務員の被行為は職の信用を失墜させ、ひいては本県教育の根幹を揺るがしかねない極めて遺憾なことであります。各学校においてはこの事案を対岸の火事とせず当事者意識を持って、指導徹底下さるよう切にお願い申し上げます。

なお現在、教職員の不祥事の防止にかかる有識者会議を開催しております。今後、この会議から提言いただいでそれを踏まえて県教育委員会としての対策を検討し、具体的な実施をしまいたいと考えております。

また、教職員評価については、地方公務員法の改正によって平成28年度、来年度からは新しい評価制度が始まることとなります。このことを受け、今年度は人事評価の試行を実施しております。これまで7年間の試行を活かしながら能力・姿勢評価と業績評価の両面から行ってまいります。さまざまな教育課題や地域に開かれた学校づくり等に対応するためには教職員の資質・能力の向上を一層図る必要があります。それらを学校組織の一層の活性化と学校全体の教育力の向上に繋げていくことが重要になります。この新評価制度はそのことを支える大きな力になると信じておりますし、校長先生方の力を借りながらそのようにしてまいりたいと考えております。

第1回評価者研修会は県内4地区で開催して全て終了いたしました。多くの方々から評価をいただいておりますので各学校の実践に役立てていただきたいと思っております。

最後になりますが、6教振に示されていることを始め、さまざまな教育活動を実施する際、教育の原点に立ち返っていただき何のためにこのような施策をするのかということ念頭に置きながらダイナミックな学校経営を展開していただくことをお願いしたいと思います。

これからの校長先生方のご健康と山形県連合小学校長会の益々の充実発展をご祈念申し上げ挨拶と致します。

## 講演

## 演題

「人間性豊かな社会を築く  
オペラ的な生き方」

講師 熊谷真一氏



演題を「人間性豊かな社会を築く オペラ的な生き方」としました。何か皆さんの心に触れる話ができればと思っています。

これまでの日本。つまり先の戦争が終わってからの70年というのは高度経済成長、所謂「坂の上の雲」を目指して進んできたわけです。その時は高収入に裏打ちされた地位や名誉を目指して、もっと教育に照らせばそれを達成する、より高い偏差値を目標に効率的に覚えることが良いとされてきたようです。その流れは今以て基本的には変わってはいないわけです。

人間の記憶は、パソコンには敵わない。そんなことは解りきっているにも拘わらず、相変わらずテストのための覚える教育に終始しているというのが残念ながら現状ではないかと思えます。

しかし、おおよそ20年前に坂の上に立ったところが、その雲は白い雲ではなく黒い雨雲で、しかも一面霧の中。視界はゼロに等しいという状況に今あるわけです。ですから、その反対側にあるこれからの日本がどこを目指していくかと考えた時に、願わくば成熟社会に向かって周りの景色を見渡しながらか、鳥の声を聞き、風のそよぎを感じ、草原に目を休ませゆっくりと下って行く為の方法を今急いで学ばなければいけないという局面にあることは疑いの余地もありません。

しかし、そうしたことは教科書にもマニュアルにもないんですね。今日では課題は自分で見つけるもの、そこからスタートするわけです。生徒自らがその課題を自分の頭で考えていろんな人の意見を聞き、取り込んだ多くの情報をその人なりの知恵に置き換

えて、自分がすべきことを見つけ、それをやっていくという時代が正に今であります。これまで誰も体験したことのない時代にあって、私は何と言っても一番大事なのは、小学校の教育ではないかと思えます。私たちの孫、子ども達にこれからの日本を委ねるしかないわけです。しかし、残された時間の中でその責任を果たすことが非常に難しいなとしみじみと感じています。少なくとも彼等を戦場に送ることは絶対にやりたくないと思うわけです。私は井上ひさしという方の弟子の一人です。やはり、今の日本の状況を見るにつけ心配で仕方ありません。私は、いろんな先生方の教えをいただきました。高校時代に鈴木重雄先生という方が担任で、その先生は「君達、大事なものが2つあるよ。一つは邪悪に対する心の清さ、もう一つは正義に対する判断力。」この2つの標語によって私はある種人間を創ってきたと思えるのです。

私は典型的な塩梅の世界、アナログの世界に生きています。例えば料理の世界は幾つかの素材の組合せなんです。一つの食材だけで食べたのではそれほどのものでない。ところがそこに補助線を引くんです。その補助線でもって料理というものは誕生するわけです。国の政治もある意味では教育も料理の一つで、この補助線を引くという作業は実は教わっていないのです。私達が教わったのは分析するという事で、それぞれに補助線を引くという方法は誰も教えてくれなかった。つまり、こういう多様性というか、これが教育の中では非常に大事なんですが、私達が小学生の頃より今の小学生の方が多様性がないように思えて仕方ありません。私達の時には、年

に一回「イナゴ採り」という催事がありまして、普段は目立たなかった同級生がなんと私の10倍ぐらい採ってしまうんですね。そういうふうな、これは一つの例ですが、人間の能力の多様性というものが昔はもう少し評価されていた気がします。

この間、経済同友会の勉強会で面白い話を聞きました。これからの日本が世界に貢献する切り口がありますよと。一つは今申し上げた塩梅の世界。白か黒か決めつけるのではなく、その中間のグレーの所が非常に大事だという話です。これまで私達はグレーというのは非常に悪い印象を持っています。でも、グレーの所に本当は物事を解決するヒントがあるということですよ。

それから自然の方が明らかに人類よりも上位にある。人間は自然の中のごく一部の存在であることを気が付きましょうと。私は子供の時から月山を見て育ちました。あの月山を時々「私の山だ」と思うことがあるんです。それは、これまでずっと月山に励まされ、あるいは見守られ、または見張られ、「月山に対してお前さん恥ずかしくないの」という自問自答を繰り返しながら今日まで来たように思います。何か大切なものを得るということはそうやって所有の概念から解き放れた時にいろんな発想が出てくるのではないかと思います。

あちこちで話をしておりますが、「ウサギとカメ」の話です。大半はウサギの油断であったと、いわゆる戒めとしてまずは語られます。でも、もう少し深く掘り下げますと、ウサギはカメを見ていた。これを相対的積極と申します。しかし、カメはウサギのことなんか構っちゃいない。ゴールの旗だけを見てそこに辿り着こうと思ったわけです。これが絶対的積極です。負けたウサギは2回戦を持ち掛けてきます。カメは当然あっさり負けます。ウサギは嵩にかかって「決着がついてない、3回戦をやろう。」と言ってきたんです。カメは困ってしまい、お母さんに相談しました。「お前は何者なの、よお考えみなさい。」「そうか」と気づいたカメは「ゴールは私に決めさせて、ゴールはあの岬の突端」というんですね。湾曲している湾の岬の突端、右に左に登ったり下ったりの繰り返しの道です。カメは何のことないスイスイと泳いで勝つわけです。ところがカメはウサギを騙したような思いが残り、「これからは陸の場合はウサギさんの背中に私を乗っけて、

海の時には私の甲羅に前足を乗せて一緒に泳いでいきましょう。」と言うわけです。これが「win winの関係」です。勝者も敗者もない両方が勝つ関係、これが非常に大事だと。これをこの教育の場で多様性というものを一つの軸にしながら如何に学ばせるかが非常に今大事だと思っているわけです。

人間のことを「考える葦である」というふうに言った方がいます。私はやはり人間は他者の言葉から出来ているんだろうと思いました。井上ひさしさんからいろんなことを教わりましたが、その中の一つが「言葉の露ほど美味しいものはない。」ということですよ。

人間の働きであります、これを司るのは脳であります。脳には一つの原理がありまして、脳にあっては全てのことは現在形一人称なんです。今、ここ、自分この三つしかありません。ですから心に描いている夢は必ず実現する。後悔ばかりしているとまた繰り返す。この脳の原理を知った時にこれをもうちょっと上手に使ったらどうだと思ったわけです。

私達はよく「心」という言葉を使いますが、心というのはどこにあるのかわかりません。心の正体ですが、肉体のすみずみまで行き渡っているかと思えば、肉体から離れて自在に時空を超えるのではないかと考えています。転がらないように掛けておくのが心掛け、金輪際外れないように差しておくのが志というわけです。私たちが両手一杯に握りしめて泣きながら生まれて来た時に、両手の中にあった希望というものがヘッドライトに変わるんですね。私達は希望というヘッドライトを額に付けている。だから自分の額の向いた先が明るくなるわけです。

石川啄木という方は「ころよく我にはたらく仕事あれ それを仕遂げて死なむと思ふ」という短歌を詠んでおります。ころよく我にはたらく仕事、これをオペラという訳です。一般的にオペラといった時にモーツァルトとかのオペラを思い浮かべると思いますが、本来のオペラというのは「ころよくはたらく仕事」を指すのです。つまり自分の仕事が生きがいと一致した生き方、これをオペラと言ってきたわけです。一方、今の仕事といわれるものの方は生きがいや趣味とは別の所に求めます。実は学校教育はそこに向かって一直線になされてきたわけです。確かにオペラ的な生き方は経済的には必ずしも恵まれていないと思いますが、別に生きがいを求

めるためのコストがかかりません。これからの成熟社会に世論が向かうときに、報酬は下がっても生きがい、すなわち形を変えた報酬はその仕事の中に既にあるわけです。

脳というのは一つの思考回路であると考えてみました。思考回路を方程式に直しますと非常に単純な  $y = ax + b$  という方程式が成り立ちます。  $y$  というのは成果で、課題  $x$  に  $a$  というものが掛けられる。これはその人の基本的態度。  $+b$  というのは他者の言葉。その人に打ち込まれた他者の言葉が貯蔵庫にいっぱいあるわけです。課題がやってきた時にこの基本的態度が掛けられていく。その掛けられ方でその貯蔵庫の中の  $b$  が浮かび結果に結びつく。課題や情報にはプラスとマイナスがあります。課題がどちらなのか判断する力が非常に大事なかなと思います。

私は小学校5年生の時に「銀行の支店長にも君ならなれる。お菓子屋になるのはもったいない」と言われました。これは打ち込まれた情報  $x$  です。その時に私は誉められたのではない馬鹿にされたと思いました。そのマイナスに反発というマイナスの感情をぶち掛けたのでいきなり大きくプラスに変わり、その時いろんな方から教わった貯蔵庫にあった言葉が浮かんで来て、そこから私の人生が始まったのだらうと思います。情報に対してどう判断するかということがすごく大事なんです。

ある方が「りんごというのは皮と中身の間が美味しいんですよ」と言うんですね。皮と中身の間には何もないんです。これは論理的に間違っているわけではなく、この辺りに実は文字通り味があるんですね。生命と自由の象徴としての仕事、これは何回も申します「生きる喜びの表現」これをラテン語でオペラと言ってきたのです。そこには当然芸術・文化の力が内包され、報酬を得るために苦痛を甘受する労働とは根本的に異なるわけです。

ヴェルディのオペラ *Nabucco* の中の合唱曲に「飛べ、我が思いよ黄金の翼に乗って」という曲があります。私はその黄金の翼を勝手に「黄金のラスクに乗って」と呼び変えて、毎日声には出さず歌っていました。そうやって具体的事業を進めてきて思いが飛んだ。まさにオペラなんですね。シベールの『15周年記念誌』を作った際、今後のビジョンについて作曲は出来ませんが交響劇のスタイルで

本に書いて、第4幕のオペラとしてシベール村を作るというビジョンを発表しました。今、本社のあるシベールファクトリーパークは、30年以上前に私が夢に描いたとおりに実は出来あがっております。

私が大江町左沢からもったいないと言われたいお菓子屋をやるためにはどうしても山形に行かなくちゃと思ったのが23歳の頃です。その時「ひょっこりひょうたん島」という番組が放送され、毎日のように見て、「丸い地球の水平線に何かがきっと待っているんだから行かなくちゃいけない」というふうに思ったんです。そうして、たぶん日本で一番小さな洋菓子店が誕生しました。25歳の時です。その時私はなんと「地方であることは文化の個性の相違であり、決して水準の差ではあってはならない」と自分の志を書きまして、毎日それを見るわけです。親父はどのみち失敗するに決まっている長男に、失敗の傷が大きくならないように金を貸さないと言ったわけです。私は仕方なしに趣意書というものを書きました。なぜ山形市に店を出すのかという意味を非常に腹を立てた小学校5年生まで遡って、その検証に行くのだと理屈を込めて書いて伯父さん3人に回しました。伯父さん達から返してもらうつもりはないと言われ借りたお金と手持ちのお金を合わせた80万で、本当に小さな、山形で初の洋菓子専門店として誕生したんです。果たして何ヶ月もつかと言われましたが、儲かったんですよ。人件費ゼロだからです。当然、伯父さん達には利息をつけてお返ししました。「返してもらうつもりはない」と言われた時、私は「しめた」とは思わなかった。思ってしまったらたぶん私の負けだと思います。そうやって私のオペラは進み始めたわけです。

オペラの生き方をする人がこれから日本を成熟社会に導くのではないか、その主人公は今の小学生、中学生、高校生その辺りかだと思います。なかんずく小学校時代にどういう教育を施されたのか、そこが日本の将来を決める大きな鍵ではないかと思います。人間の持っている多様性、何も記憶力だけではありません。パソコンはとてつもないスピードで物事を処理しますが、補助線がないんです。塩梅、中間がない。何度も言いますが、この中間の所にあるもしかしたら経済を支えるのは文化の力ではないかと思った時に、やはり一朝一夕に文化の力は養えませんので、小学校時代に何を讀んだかがものすごく大

事かなと思います。私はたぶん小学校の教科書で宮澤賢治の「雨ニモマケズ」を読んだ気がします。何気なく読んだあの詩が私を今日まで導いたのかなと。私と井上先生の共通項はやはり宮澤賢治であると思うんです。その賢治の詩集「春と修羅」の「序」の言葉。これが私が自分の将来のことを考えようとしていた時に出会った言葉であります。

わたくしという現象は  
假定された有機交流電燈の  
ひとつの青い照明です  
(あらゆる透明な幽霊の複合体)  
風景やみんなといっしょに  
せわしくせわしく明滅しながら  
いかにもたしかにともりつづける  
因果交流電燈の  
ひとつの青い照明です  
(ひかりはたもち、その電燈は失はれ)

というようにはじめのところにこの10行があります。その「序」の言葉は非常に瑞々しい。言葉の露の美味しさというものを本当に感ずるんです。特に10行目の「ひかりはたもち、その電燈は失はれ」これは厳しく私に襲いかかってまいりました。因果ですから全ての結果には原因があるんですよ。今後ともそういう良き因果を続けていきたいのであれば、「ひかりはたもち、その電燈は失はれ」ということなんです。私はシベールの創業者であります。文字通り光はシベールです。私はシベールを照らす創業時期に限った照明器具なんでありまして、これはいつか取り替えられる運命にあるわけです。

しかし振り返って見た時に、この私のオペラ的な生き方は決して不満ではありません。これは、地域の皆さんからの戴き物の結晶ですから、自分の懐に入れるわけにはいかないということであのシベールアリーナと遅筆堂文庫山形館、母と子に贈る日本の未来館という物を造ったわけです。願わくば今の子ども達にオペラ的な生き方をしたい。先生方にはそういった方向で導いて欲しい。そして、日本を世界に貢献できる国、これは経済ではありません、謂わば文化の力でありましょう。平和に満ちた日本という文化の力を以て世界に貢献する。それを成し遂げる子ども達にさせていただきたいと心からそう願っております。どうもありがとうございました。

## オペラ的な生き方に学ぶ

朝日町立大谷小学校 奥山 淳一

平成20年にシベールアリーナ&遅筆堂文庫が落成しました。その柿落しの一つとして、第1回シベール杯山形県卓球選手権大会が開催されました。当時代表取締役社長だった熊谷眞一氏のご厚意とご尽力の賜です。左沢中学校と山形商業高校で卓球部に籍を置き活躍された熊谷氏は、私たち卓球人の誇りでもあり、卓球で築き上げた人間力を礎に、経営手腕を存分に発揮していることに、敬意を表しているところです。

何回か講演を聞いたり、毎年話を伺ったりする中で、熊谷氏の生き方に共感し、優しい人柄と自分を見つめ何事にも前向きな芯の強さを強く感じていました。

今回は、「課題は自分で見つける・自分の頭で考える・背後の意見を聞く・知恵をもってみつめやっっていく」という大切なこと、東京の小学1年生の孫とのかかわり、井上ひさしとの交友・師弟関係、戦争をしない平和の大切さ、経済同友会での「①やあんなばいの世界（白黒つけず、グレーを大切に）②自然>人間に気づこう」の話題など、心にしみる内容でした。

「人の悪口をしていると、その人になる。尊敬していると、自分を変える。」「課題はプラスよりマイナスの方が多い。チェンジはチャンス!」という言葉肝に銘じ、負けない・めげない・へこたれないレジリエンスの心で勢いのある学校づくりに努めていきます。それは、オペラ的な生き方のできる子どもたち、世界に貢献できる子どもたちの育成につながるものと確信しています。



## 第 1 分科会

### 経営ビジョン

#### ○子どもたちの夢や希望を育む創意と活力に満ちた学校経営ビジョン

東根市立東郷小学校 岡村 祐二

#### 研究協議のまとめ

##### (趣旨)

学校は、子どもたちの夢や希望を育み、その実現に向かう力を育成しなければならない。そのためには、校長の指導のもと、創意あふれる学校づくりが必要となってくる。本分科会では、子どもたちが生きる未来社会を見据えた明確な学校経営ビジョンを持ち、創意と活力に満ちた信頼される学校経営推進の在り方を明らかにする。

##### (研究協議内容)

##### 〈協議の柱〉

- ① 7つの構成要素を基に作成した学校経営ビジョンについて、参会者の経営ビジョンと比較しながら、経営ビジョン作成にあたり大切にしていきたい要素を明らかにする。
- ② 学校経営ビジョンの策定に係る「中・長期的な視点を持つこと」について、経営する者としてどのように組み入れるべきかご意見をいただきたい。

##### 〈出された話題の中から〉

- 職員の考えを吸い上げ、全職員の願いが詰まった経営ビジョンにし、どこに発信するのかを明確にしたシートにする必要がある。
- 7つの構成要素について、具体的な手立てが明確になっているとわかりやすい。構成要素はビジョン策定にあたり大変参考になった。
- 中・長期的な視点は、想定できる範囲内で、課題等を年次計画で盛り込めればすばらしい。

##### (まとめ)

学校経営ビジョンを7つの構成要素を基に策定することで教職員の方向性がそろい学校と地教委、地域が一体となった教育活動推進への期待ができ、子どもたちの夢や希望を育むことに繋がっていくと考えられる。

(記録 常盤小 明日 浩幸)

#### 第1分科会に参加して

上市市立中川小学校 藤原 由美

北村山地区小学校校長会の発表は、必要感を持ち、柱とすべき7つの要素を明確にした学校経営ビジョン策定の提案でした。地区内5校の経営ビジョンを具体例として提示していただいたこともあり、グループ討議は活発で、あっという間の分科会でした。

7つの要素にそって学校経営を考えると、校長として整理すべきポイントが分かり、具体的な行動目標が見えてきます。欠けることなく、バランスの良い経営ビジョンが出来上がり、校内で共有することで組織運営が円滑に進みます。客観的な視点を持ち、振り返ることも可能です。ただ、保護者や地域の方々と同様の情報提供が必要なのかどうか。保護者や地域の方々にとって必要な情報は、学校の目指す姿であり、どのような関わりができるのか、学校が何を提供してくれるのかだと考えます。相手の望む情報を、シンプルに、よりわかりやすく提供することも大事なことと思いました。

また、学校経営にはある程度の年月を見越した経営が望まれます。見通しを持ち、目標実現に向けて着実に歩みを進めること。しかし、与えられた時間は誰にも分かりません。見通しを持ちつつも、今を大切に、その積み上げが学校を創るといった意識を持つこと。日々改善を考え実践し続けることも校長の役目として学ばせていただきました。

グループ討議の様々な話題は、とても新鮮で情報交換も大きな収穫でした。ありがとうございました。



## 第2分科会

## 組織・運営

## ○活力ある学校にするための組織づくりと人材の育成

真室川町立真室川あさひ小学校 高橋正彦

## 研究協議のまとめ

## (趣旨)

県はもとより、最上地区も教職員の高齢化が顕著に進んでいる。ベテラン層に対する若手・中堅教員との年齢構成のアンバランス化が学校経営の活力に大きな影響を与えている。また数年後にベテラン層教員の大量退職時代を迎える。これらの状況の中で、円滑な世代交代を進めるために校長はどんな組織を編成し機能させていくべきか、その手立てを探る。

## (研究協議内容)

協議の柱と主な協議内容

## 1 職員を育てるための方策

- ケース会や学年会また校務分掌枠の垣根を越えたプロジェクトチームを作り、校長(教頭)が積極的に中に入り、理念を反映させやすいOJTシステムを構築する。
- 授業を参観し、振り返りを率直に話すことができる機会や面談を設定する。教員評価とも関連づけながら、授業を見てあげる、見てもらっている関係と雰囲気作りに力を注ぐ。
- ミドル層に対して管理職登用準備や、今後つけるべき資質を率直に伝えながら力量を高める。これは教頭を育て資質を高めることにも直結し結果的に職員が育つことにつながる。

## 2 ベテラン層の教員を活性化させるための方策

- 得意分野や持ち味を生かす分掌配置を行い、中堅や若手教員の育成を命課することで、めあてや目的を意識づける。
- 校長は経営ビジョンについて話したり相談したりしながら経営参画意識を高め、有用性を持たせながら経験値を発揮してもらう。
- 心身の健康に配慮し、居心地がよく働きがいのある職場づくりに努めることはベテラン育成に限らず全ての大前提である。

(記録 赤倉小 奥山 衛)

## 第2分科会に参加して

天童市立津山小学校 國井由紀子

第2分科会では「活力ある組織・運営の実現と校長のあり方」の研究課題のもと、熱い話し合いがもたれた。勢いのある教師集団は課題があっても乗り越えていく力をもつ。教職員の持ち味を生かし、より活性化した組織の運営は校長職3年目の私にとって大きな課題である。ベテラン層の活性化や若手の育成、まさに日々悩んでいることであった。

最上地区小学校長会より、実効性・機動性に主眼をおいた組織づくりが重要であること、運営・運用面ではコーチング理論やOJTを積極的に活用しながら経営参画意識の高揚を図ることなどが提言として出され大変参考になった。

その後の小グループでの話し合いでは、どの学校もベテランの職員が多い中、職員を育てていく工夫をお聞きすることができた。校務の再編成を行い組織としての活性化を図ること、立場が人を育てるという観点から校務分掌や担任など育成する場を設けながら指導していくことなど大変参考になる話し合いであった。また、若手とベテランをペアにすることで、若手だけでなくベテラン層の教員を活性化させること、教頭など核になる職員を育成することが重要であることなどを学ぶことができた。

最後にまとめられた協議内容の要点「組織」「校長の決意」「健康」というキーワードを大事に、活力ある学校運営に努力していこうと感じた研修となった。



## 第 3 分科会

### 評価・改善

#### ○学校・家庭・地域の連携に資する学校評価の在り方

鶴岡市立福栄小学校 宮島 昭子

#### 研究協議のまとめ

##### (趣旨)

学校評価は、学校を取り巻く状況を見定め、展望をもった目標を設定し、実践を吟味して経営改善にいかしていく必要がある。人事評価は、教職員自ら専門性や指導力を高め、自信と誇りが持てるように活用する必要がある。本分科会では、学校評価や人事評価を学校経営に効果的に活用し、これからの時代の学校づくり・人づくりの推進の在り方を明らかにする。

##### (研究協議内容)

**協議の柱 1** 校長は、家庭・地域から理解を得て信頼性や客観性を高める学校評価を行うために、どのような学校情報の発信が可能か。

- ・保護者と共に子どもを育てる観点から評価したい。
- ・保護者にとって評価するための情報が少ない。学校経営についてていねいに説明する場が必要である。
- ・発信だけでは理解は得られない。双方向の関係を。

**協議の柱 2** 校長は、評価結果をふまえ、連携して課題の解決に取り組み、教育の質の向上に努めるために、どのような課題の提示を行い、組織の体制作りにつなげることが可能か。

- ・保護者の意見要望を大切にしながら経営改善に努め、改善したことが保護者に伝わるようにする。
- ・学校サポーター中央委員会(羽黒三小)のような学校以外の方の声も大切。その人をどう集めるか？
- ・人事評価については、処遇の方針が明確でないが、職員に元気を与えるような評価にしていきたい。

**まとめ** 学校評価の信頼性や客観性は大切であるが、それ以上に学校経営の改善という視点で評価を捉えることが大切である。保護者や地域の実態、職員の実態に応じた校長の戦略に資するための学校評価・人事評価にすることが、人材育成につながり、教育の質を高めることにつながる。

(記録 鼠ヶ関小 五十嵐芳昭)

#### 第3分科会に参加して

大石田町立大石田北小学校 本多 諭

次年度、「評価・改善」分科会の話題提供を担当する北村山地区の一員として、学校評価への取り組みについて、県内各地の校長先生方と考えの交流ができればと思い参加させていただきました。良かったと思うことが3つあります。

1つ目は、協議の柱が「どのような～が可能か」という問題提起の形であったこと。教師の性でしょうか。問いかけられるとしっかりと考えるようになるものです。これまでを振り返りながらも、多様な面から考えることができました。

2つ目は、グループ別協議でのキーワード提示という方法です。視点が明確になり、話し合いがぶれずにすみました。私のグループは「信頼性・客観性」と「組織の活用」をキーワードにしましたが、校長として次の一手を見つける有意義な話し合いになりました。(例：年2回の学校経営説明会の開催…等)

3つ目は全体交流の場です。5つのグループの発表があったわけですが、同じだなと納得したり、新たなアイデアになるほどと感心したり、短い時間ではありましたが、自信とやる気をいただきました。

評価のための評価にならず、教職員が元気になるように、学校の実態を踏まえながら戦略的に活用していきたい…そう強く感じた分科会となりました。

最後になりますが、話題提供をしていただいた田川地区小学校長会、分科会運営に尽力された西村山地区小学校長会の皆様に、心より感謝いたします。



## 第 4 分科会

### 知性・創造性

#### ○調和のとれた子どもを育む教育課程の工夫と校長の在り方

～「長井の心」の育成を通して～

長井市立豊田小学校 渡部 恭子

#### 研究協議のまとめ

(趣旨)

様々な変化や課題に立ち向かい乗り越えるには、既習の知識・技能や経験を生かし、柔軟性や粘り強さ、見通しをもって解決にあたるしなやかな知性や新しい価値や知恵、ものを生み出す豊かな創造性を身に付けさせ、調和のとれた子どもを育成することが重要である。本分科会では、そのための教育課程の工夫と校長の在り方について、具体的方策を明らかにする。

(研究協議内容)

発表者が、調和のとれた子どもの育成を通して知性・創造性を育成すべく、市の教育目標を踏まえて「10の子ども像」を市内全校で共有し、各校独自の教育活動と、市全体で進める共通実践の双方向からねらいに迫る取組を紹介した。幼保小中高の連携や、児童会、学校・地域・PTA等の協働が進んだことによる成果が報告された。

グループ協議では、各市町村で行われている共通実践と、学校独自の特色ある教育活動について情報交換をし、テーマに迫る教育課程の工夫と校長の役割を話し合った。

共通実践としては、同一講師の指導による方向づけや、生活リズム作り、宿泊体験活動、読書・アウトメディアに関する取組等が紹介された。

校長の役割としては、課題と解決のビジョンの共有や取組の価値づけの大切さ、外部団体や専門家を含む人材の確保の課題、連携促進の取組等があげられた。

また、特別支援教育の充実や授業力向上が重要であることも話題に上った。

いかに知性・創造性を育むかについての論議は継続課題であり、主旨や研究の視点についてより具体的に理解したいとの意見があった。

(記録 伊佐沢小 小杉 慶子)

#### 第4分科会に参加して

酒田市立琢成小学校 松本 克則

初めて県連小研究協議会に参加させていただきました。不勉強の私は会が終了してから疑問が生じてきて、今後の研修へのきっかけとなる貴重な時間になりました。

第4分科会では、西置賜地区を代表して渡部恭子先生の研究発表がありました。大変わかりやすく、まとまりのある内容だと思いました。

揺るぎない「長井の心」を具体化した「10の子ども像」を踏まえての教育活動は、方向性が明確になると思います。大学教授を講師としての理論づけも手堅い手法であり、校長の在り方も簡潔に記されていました。最後の提言についても十分領けます。

その後、協議の柱を「『調和のとれた子ども』を育成するために」と設定し、「①各校でとりくんでいる実践例と校長の果たす役割」「②市町村で、同じ方向を向いて実践している例と校長会の果たす役割」について、真剣かつ和やかにグループ協議・全体交流が行われました。

しかし……恥ずかしながら私には、分科会の大テーマである「知性・創造性」がわかりません。

「しなやかな知性・豊かな創造性」とは、いったいどのようなものなのでしょうか。「調和のとれた子ども」との関係は？「確かな学力」との関係は？思考力・判断力・表現力及び主体的な態度との関係は？探究型学習で付ける力との関係は……？

遅まきながら課題意識が生まれてきました。



## 第 5 分 科 会

### 豊かな人間性

#### ○共に生きる人間的な絆を強め、豊かな人間性を育む教育課程と校長の在り方

山辺町立大寺小学校 山本 正博

#### 研究協議のまとめ

##### (趣旨)

人間関係の希薄化や家庭・地域社会の教育力低下など、子どもを取り巻く環境の変化が子どもたちの心を不安定にし、いじめなどの問題行動につながっていると考えられる。そこで、子どもの心を育てる人間関係づくりの観点から、深い児童理解で豊かな人間性をはぐくむ教育課程と校長の在り方がどうあるべきかを探る。

##### (研究協議内容)

##### 《教育課程への位置づけと、職員指導について》

- 行事や教科などの価値と合わせて焦点化し、職員に話し合わせることで意識化させ、教育活動を仕組むように指導することが校長としての在り方ではないか。その中で、教頭、教務主任、ミドルリーダーを育成することが大切である。
- 教育課程がこなすだけのものになっていないか反省したい。スクラップしていくことで本当の意味を見出し、ゆとりを生み出し、職員が人間関係づくりに向かえるのではないか。
- 地域の協力を得ての活動を教育課程に位置付けてはいるが、バランスをとるのも校長の役目である。昨年度踏襲ということはせず、ねらいを明確にして実践に当たりたい
- 子どもの現状を的確にとらえ、課題を明らかにして取り組みのベクトルをそろえていくこと。特に管理職、教務主任の認識を共有し、役割を分担しながら職員の指導に当たりたい。
- 子どもたちの豊かなかかわりを育てる基底は先生方のかかわり力。そのために職員とのコミュニケーションが大切。職員一人一人に対して、期待をかけ、望むことをきちんと伝えていきたい。

(記録 荒谷小 秋葉 典子)

#### 第5分科会に参加して

山形市立みはらしの丘小学校 村上 宏幸

第5分科会「豊かな人間性」の研究課題には、「絆づくりを通して豊かな人間関係を育む教育活動づくりと校長の在り方」とある。

発表してくださった東村山地区校長会の補助資料には、児童同士の関わりづくりの活動の事例、関わりづくりを指導する指導者の資質向上の取り組みの事例、関わりを創造する教育課程編成の事例、小中連携・外部との連携の事例等が詳しく記載してあり、グループでの話し合いを行う際見通しをもつのに大変参考になった。

豊かな人間性を育てるという心の教育の大きな枠組みで、自校の教育課程を改めて見直し、校長として「心の教育」の大きな指針と全体像を示すことが必要であることを痛感した。

また、示した指針をもとに、ひとつひとつの教育活動の意義を見直し、紡ぎ直す。そして、小学校6年間の教育課程の中で、確実に児童一人一人の人間性が豊かなものになっていくように、毎年毎年の教育課程づくりのリーダーシップをとることが、校長の大切な役割であることを学ばせていただいた。

さらに、もうひとつ校長としての重要な役割として、教職員の人間性をいかに高めていくかということもとても大切であると感じた。児童同士の関わりの高さ、何気ない温かさを感じ取るには、教職員がそのような関わりの中にあること、また、経験していることがとても大切であるからである。



## 第 6 分科会

## 研究・研修

## ○やる気と力を生み出す研究・研修の創造

米沢市立三沢東部小学校 菅原 透

## 研究協議のまとめ

(趣旨：協議の柱)

- 1 教職員が必要感をいだき前向きに取り組む研究・修養をどのように仕組むか。
- 2 教職員個々や学校の実態を生かした「力をつける」研究・修養をどのように仕組むか。

(研究協議内容)

- 必要感 (例えば、小中連携、外国語活動) を感じさせながら、どのように前向きに取り組ませるかが校長としての役目である。
- 加配の職員を生かした工夫や教科担任制の導入、若手とベテランとの連携等、システムを変えて、意識の向上を図る。
- 研修意欲を高める場の設定として、トップダウン研修から職員の必要感から生まれる研修 (ボトムアップ研修) が大事である。
- 教員の専門性に対して、子どもの学びや学級経営について、客観的にとらえさせることが校長の役割である。
- 学年主任をしっかりと学年を経営していく存在になるように育てていく。
- 米沢東部小の「若手塾」のように、日常的な研修の場が大切である。
- どんな組織体制を作りだすか、校長としての指導やサポート、思いを伝えていくか、そして、次の人材育成につなげていくか。
- 一歩踏み出すために、核となる教員に役割を与えることで人を生かしたり、期間限定で〇〇する等を設けたりして取り組む。
- 校内研修を活性化させるために、協議の視点、内容を焦点化する。
- 大量採用、大量退職時代の到来に備え、若手育成について、様々な場面が研修の場になっているという視点を持って育てる。

(記録 南原小 上村 幸治)

## 第6分科会に参加して

戸沢村立戸沢小学校 市川 重保

教師の担任力を育てることは、私たち校長にとって何よりも大きな課題である。教師の指導力・資質の向上には、どんな手立てがあるのか。どうしたら校内研究が活性化するかなど、日頃の悩みを共有したりお互いに共感的に受け止めたりした実り多い分科会でした。

米沢地区校長会からの発表は、米沢のPRを随所に散りばめて豊富な実践をもとに、示唆に富む提案がなされました。教師自らの主体性をとても大事にしている姿勢に感銘を受けました。特に、「踏襲からの脱却」は、なかなか難しいことですが、「まずやってみよう」という校長の呼びかけで、チームを編成し、学校の一体化を作り出した実践は、とても参考になりました。また、重点化・焦点化した研究・研修は学校に「勢い」を生む。そして、やりがいを感じた研究・研修は「人間力」を育てるという提言は、校長として常に心に留めて置きたい言葉として残りました。

グループ討議で出された「システムを変える」「組織体制を作る」などは、校長として大事な視点であり校長にしかできないことでもあります。校内研究をリードするものとして、心していききたいと改めて確認しました。まもなく、若い先生方がたくさん採用される時が来ます。そのときのためにも、学校組織を作り上げ、学び合うシステムの構築に取り組んでいきたいと思いました。



## 第 7 分科会

## 学校安全

## ○命を守る安全教育の推進と校長の在り方

～学校安全マネジメントの推進に向けた校長の一手～

寒河江市立高松小学校 阿部雄宏

## 研究協議のまとめ

## (趣旨)

大震災や洪水などの災害の経験から、子どもたちの健康と安全を確保するために、防災・安全の学習や多様な訓練の機会を確保することが求められている。本分科会では、子どもたちが主体性を持って災害から自らの命を守り抜く危険予測・回避能力をはじめ、自ら判断し行動できる子どもを育てる健康・安全教育の在り方を明らかにする。また、教職員の防災・安全意識を高める必要もある。各校の安全教育の推進について、校長の果たすべき役割を明らかにする。

## (研究協議内容)

協議1：「学校安全マネジメントについて、あなたの学校ではリーダーシップをどう發揮しているか。」

○南陽市の水害を受け、地域・市職員との会議を通して地域と連携した避難訓練を実施し課題が見えてきた。

○ネットやスマホに関わるトラブルに関する予防対策と情報流出への危機管理意識の高揚を図る。

○食物アレルギーに関わる最新情報の収集と校外学習や調理実習等への対応に留意する。

協議2：「学校安全マネジメントについて、あなたの学校では次の一手をどう考えているか。」

○発表された「ふりかえりカード」「3年スパンの避難計画」「活用型訓練計画」などを参考に計画を再考しマニュアルを整備する。

○避難訓練などで集団行動を指導できる教職員の育成を図る。

○保護者との連絡方法としてのメール・ライン・電話等を活用する上での留意点の集約とトラブルへの指導の仕方の検討を図り、メディアや情報機器などの最新情報の収集に努める。

(記録 白岩小 井上 淳二)

## 第7分科会に参加して

米沢市立上郷小学校 菅野喜教

第7分科会では、西村山小学校長会の『命を守る安全教育の推進と校長の在り方～学校安全マネジメントの推進に向けた校長の一手～』と題した研究発表の中で、西村山地区の各校の取り組みの成果と課題を詳しく示していただき、そこから第7分科会として共有したいこととして、①学校安全マネジメントの視点から、どんな実践が行われ、どんな課題があるのか。②継続的な推進を目指すマネジメントの視点から、「次の一手」として何が必要なのか。この2つの提言を受け協議の柱を基調に、グループ毎に各校の実情や課題、校長の安全教育に対しての経営理念や実践が熱く語られました。

各グループの話し合いから、①子どもたちの命を守る基本は先ず集団行動力をしっかりと育てることだ。②食物アレルギー対応が、今後の安全教育の課題となるのではないかと。③避難訓練後の、ふりかえりカードを効果的に活用することが大事である。④情報モラルについて、小学生のうちからもっと指導をしっかりと行うべきである。⑤安全管理面で、校長が気付いたことは、躊躇わず声に出すことが大事等、校長として今後の安全面の学校経営に活かせる意見をたくさん教えていただきました。時代の移り変わりにより、子どもたちの周りでは、予想外の新たな危機要因が待ち受けている今日、『自分の命は自分で守る』子どもの育成が、校長として最大の使命であると再認識させていただくことができました。



## 第 8 分科会

## 健全育成

## ○楽しく魅力ある学校づくりの推進

～いじめ・不登校を生まない学校づくりをめざして～

上山市立上山小学校 金原 克之

## 研究協議会のまとめ

## (趣 旨)

一人一人の児童理解を進め、教職員で情報を共有し、課題解決や改善に向けて組織的な教育活動の展開を図り、すべての子どもにとって安全で安心な居場所となる学校を目指していくことが求められる。本分科会では、子どもの健全育成を阻害する課題を予見し、いじめや不登校を生まない学校づくりの推進の在り方を明らかにする。

## (研究協議内容)

## 《協議の柱》

- ◎子どもにとって楽しく魅力ある学校となりえない原因は何か。校長としてその対応をどう進めるか。
- ◎いじめ・不登校を生まない学校づくりのために校長はどんなリーダーシップを発揮すべきか。
- 《協議内容》
- 「楽しく魅力ある学校となりえない原因」の中でも最大のものは、「日々の授業」である。校長として、教員が、一人一人の子ども理解に基づいた学級経営を土台に、子どもが楽しくわかる授業、力の付く授業ができる指導力を高める教員指導を行う必要がある。
- ・年度初めに担任が変わったことで、子どもが学び方（授業の進め方や家庭学習の仕方等）で困らないように学校としての骨太の方針（6年間でどんな子どもを育てるかという方針）をしっかりと示すこと。
- ・授業研の質を高める工夫（授業者が何をやりたいたのか分かる主張のある授業づくりや子どもの変容に基づいた事後研での話し合い）を示すこと。
- 「いじめ未発見ゼロ、未解決ゼロ」を目標に、子どもの居場所づくりや絆づくりの方針を教職員に徹底すること、困った時に誰かに相談できる子どもを育成することができる組織作りを行う必要がある。
- ・人間関係をうまく構築できない心の逞しさに欠ける子どもを長中期的な展望のなかでたくましさやコミュニケーション力をどう培っていくのかという視点を入れた校内支援体制（校内OJT、情報の共有化、特別支援教育に係る研修）を整備すること。

(記録 西郷第一小 岡村 廣)

## 第8分科会に参加して

白鷹町立鮎貝小学校 向 田 聡

分科会メンバー20名、第2特別会議室で重役会議のようなテーブルが真中にどかっと陣取っていた。確かに重役程度の年頃の者が集まっていたが、私達は小規模校の学級のように、何年も前からの仲間のように発表に聞き入り、話し合いをおこなうことができた。それは、今まで生きてきた場所は違えど同じような課題を抱え、同僚とともに悩みながら、挑戦しては失敗したり、工夫や組織的な対応が功を奏しては上手く事が運んだり、子どもの教育というものに長年身を粉にしてきた仲間だからと感じた。

上山地区の発表には、「そのとおり」とうなづける部分が多かった。いじめや不登校などのない楽しく充実した学校づくりは、徹底した予防対策に尽きる。誰もが自他を大切に思い、お互いのよさを認め合える人間関係を築くことが大切であり、言わば「攻めの取組」が必要で、子ども達のより良い人間関係づくりに手を尽くしていかなければならないと思っている。この点はたくさんの取組が各グループで紹介されたようだ。大学講師を招聘しての学校づくり研修の開催、児童会活動や縦割り活動の工夫、各種プログラムの実践、主任層や特別支援CDの育成などが参考になった。

他にも子どもの世界の変化に気づく感性、職員間の共通理解、SNS問題への対応など、たくさんの課題が出され、学ばせていただいた。今後、自校において少しずつ実践していこうと思う。



## 第 9 分科会

### 自立と社会性

#### ○自立と社会性を育てる教育の推進と校長の在り方

南陽市立梨郷小学校 淀野 秀樹

#### 研究協議のまとめ

##### (趣旨)

すべての人々が相互に人格と個性を尊重し合う社会の実現に向け、その基盤形成のため、子どもたちが共に生活し、互いに尊重し合う感性を育みながらも、特別な支援を必要とする子ども一人一人には、それぞれの教育的ニーズを把握し、適切な指導及び必要な支援を行うことが求められている。本分科会では、特色ある学校経営の中に共に生きることを目指した学習の場を設定し、自立を図るための特別支援教育の推進の在り方を明らかにする。

##### (研究協議内容)

#### 1 全員アンケート及び全員研修会について

校長会組織のリーダー性があり、組織マネジメントの切り口から課題解決につながったのではないかな。

また、支援が必要な児童を早期に発見するための取り組みを行政施策として行うよう校長会として働きかけて行く必要があるのではないかな。

#### 2 UD・キャリア教育的視点の活用について

4つの視点で活動を整理することで、キャリア教育への意識を持って取り組むことができる。

#### 3 まとめ

教職員の困り感を把握し、校長会のリーダーシップで組織として取り組むことは、連携、連動に結びつき児童の変容につなげることができるのではないかな。また、これまで行ってきた体験活動をキャリア教育的視点で見直すことで、自立と社会性を育むことのできる取り組みに変えていくことができるのではないかな。

(記録 荻小 渡邊 齊)

#### 第9分科会に参加して

鶴岡市立朝陽第二小学校 齋藤 圭一

「自立を図り社会性を育てる教育の推進と校長の在り方」をテーマに分科会が進められた。自立と社会性が問題となっている背景に、一人で時間を過ごす子や集団から孤立している子など、巣ごもりと集団離れによって、自立が遅れたり、良好な人間関係を築けない子どもが、増えている実感があるだけに、課題解決に向けた糸口を見つけない気持ちで参加させていただいた。前段の南陽市小学校長会の発表は、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりとキャリア教育的視点を持った特色ある教育活動について、アンケート調査の結果からの検証であった。特に、調査結果を基に、困り感や課題を共有しあったことや全教職員を対象にしたユニバーサルデザインを取り入れた授業づくり研修会を開催するなど、南陽市校長会のリーダーシップに学ばせていただいた。

後段のグループ別協議では、個々の自立に向けた個別支援計画の引継などを中心とした小中連携の重要性についても触れながら、校内の体制づくりのキーパーソンとなる人材の育成に関する課題も出された。その他にも、30分のケース会議やホワイトボード会議など、日常的に配慮を要する児童の話合いの場の設定を工夫している実践例の紹介など、自立と社会性の向上に向けた様々な取り組みを聞くことができ、大変参考になったし、充実した協議になったことに感謝したい。



## 第10分科会

### 連携・接続

#### ○地域連携による校長の在り方

～チェックシートの作成と活用を通して～

山形市立高瀬小学校 柴田 公利

#### 研究協議のまとめ

##### (趣旨)

地域社会の維持・発展のためには、子どもたちが多くの人と出会い、つながり、支えあいながら生きていくことを学ぶ必要がある。人づくりの基盤は、学校・家庭・地域のバランスのとれた教育の上に成り立っている。学校は家庭や地域と共に子どもを育てていくという視点を持ちながら、連携・協力しなければならない。しかし、これまでの学校は地域の協力を得るという立場で教育活動を推進してきた傾向がある。これからは、地域の教育力を生かし、地域への貢献という双方向の連携を進めることが求められている。本分科会では、双方向の連携・協力はどのように進めるべきかを校長の役割を中心に究明する。

##### (研究協議内容)

- 1 チェックシート (※) は効果的か。
    - 校長が振り返るための資料として活用できる。
    - チェックシートに記入することで課題が見えた。
    - 学校が大事にしていることを地域の方に知っていただく資料になる。
    - 対象が全学年か各学年かで、チェックする項目が違ってくる。
    - 課題は見つかっても、解決には難しい面がある。
- ※「チェックシート」とは、地域との連携を図る上での指針となるような観点を山形市小学校校長会で32項目にまとめたもの
- 2 小学校の地域貢献をどう考えるか。
    - 地域の協力により、子どもに郷土愛を育むことも地域貢献であろう。
    - 学校や子どもに関わっていただくことで、喜びを感じていただけることも貢献と考えられる。
    - 子どもが、地域のがんばっている人の姿を見て育つ。それは「やがての自分の姿」である。

(記録 桜田小 渡辺 修)

#### 第10分科会に参加して

高畠町立屋代小学校 高橋 聡

第10分科会では、「家庭・地域との連携・接続の推進と校長の在り方」を研究課題として、主に、地域連携を充実させるための方策と校長の在り方について発表及び協議が行われた。

山形地区からは、地域連携についてのアンケートから見えてきた課題の解決に向けて、チェックシートを作成し、活用、検討、改訂を繰り返し、よりよい連携の進め方や校長の役割を研究してきた成果が発表された。

協議の前段、提示されたチェックシートを使って、参会者それぞれが自校の取組をふり返り、丸印をつけながら評価を行った。自校の取組のよさや課題があらためて見えてきて、活動をふり返る際のチェックシートとして大変有効であることがグループ協議でも確認された。山形地区の提言のとおり、校長が地域連携のポイントを明確にし、学校職員や地域住民へ示していくことが大事であり、このチェックシートはその際の自己点検の資料として大変有用であると感じた。

グループで各校の地域連携の状況を情報交換できたことも大変よかった。学校統合が進む中、地域との結びつきをいかに確かで意義のあるものにしていくか。職員の負担軽減を図りながらも、地域の教育資源を積極的に生かせる力のある教員をどう育てていくか。校長として働きかけるべき点を確認することができて大変有意義であった。





開会の挨拶



閉会の挨拶



第1分科会



第2分科会



第3分科会



第4分科会



第5分科会



第6分科会



第7分科会



第8分科会



第9分科会



第10分科会